

「美術」という言葉は明治になってから生まれた日本語ですが、この言葉が使われ出すずっと前から絵を描いて、暮らしをたてている人たちがいました。

明治以前において「絵師(画師)」と呼ばれたこれらの人々は幕府や藩からの命を受けた、いわば公的な仕事をする人たちと、民間で絵を売って暮らす人たちとに大別されました。前者は「御抱え絵師」「御用絵師」、後者は「町絵師」などと呼ばれていました。

米沢藩には「目賀多」という絵師がいた事が知られています。目賀多家は代々狩野派に学び、その技術をいかして米沢藩に仕えていました。藩から扶持(お給料)をもらう「御抱え」絵師だったのです。

では米沢藩の絵師たちはどんな仕事・暮らしをしていたのでしょうか？

目賀多家は南北の二家に分かれており、その系図には不明な点も少なくありません。しかし、残された資料からは絵師たちの興味深い日常をうかがい知ることが出来るのです。

本展覧会では当館所蔵の作品から知られざる目賀多家の姿をご紹介します。

■入場料

券種	コレクション展	常設展とセット
一般	200円(160)	400円(320)
高校・大学生	100円(80)	200円(160)
小・中学生	50円(40)	100円(80)

()団体20名以上

■ギャラリートーク(企画展示室)

平成22年 1月30日(土) 14:00～
2月13日(土) 14:00～

*当館学芸員による展示解説(要コレクション展入館料)

■募集制ワークショップ

おとなのための鑑賞の時間

「古美術をたのしむ ～狩野派の絵画～」

2月26日(金) 19:00～ (博物館閉館後)

場所:企画展示室

対象:高校生以上20人程度

参加費:500円

*1月27日(水)～申込受付開始(0238-26-8001)



<その他主な展示資料>

- 山水図 一幅 目賀多守息
- 仙人図 双幅 目賀多雲川
- 竹梅図 一幅 目賀多雲川(守息)
- 聖賢図 双幅 目賀多守如
- 松梅図 一幅 目賀多守如
- 山水図 一幅 目賀多信済

目賀多家粉本

山水図屏風 六曲一双 目賀多信済



布袋図 一幅 目賀多信済

寿老人 一幅 目賀多守息



竹林七賢・商山四皓図屏風 六曲一双(左隻) 目賀多守如

常設展示室
上杉文華館

<展示資料>

- 上杉本洛中洛外図屏風(複製)
- 米沢本川中島合戦図屏風 右隻4～6扇
- 浅葱系威二枚胴具足(栗林頼忠所用)
- 直江大和守(景綱)宛織田信長副状(国宝「上杉家文書」)
- 上杉家軍役帳(国宝「上杉家文書」)

上杉謙信の重臣、直江景綱

平成22年1月30日(土)～平成22年3月7日(日)

※月曜休館

置賜文化ホールからのお知らせ

お問合せ 0238-26-2666

3/14(日) 米沢市制施行120周年記念
「国宝『上杉本洛中洛外図屏風』を聴く」

13:30 開場 鈴木広志グループ×作曲家・大場陽子

14:00 開演

指定席 3,000円 自由席 2,500円

学生(自由)席 1,500円(当日各500円増)

*チケット発売中

プレイガイド:伝国の杜、大沼米沢店、米沢サティ、音楽Azm館、米沢楽器店

託児あり・受付締切3/7(日)

出演:鈴木広志(Sax) 大口俊輔(Pf) 東保光(Bass)

小林武文(Drums) 大場陽子(作曲)

世界初演の
コンサートです。
お見逃しなく!

3/22(祝) 伝国の杜 ども狂言クラブ
春休み発表会

14:00 開演 エントランス能舞台

入場無料

番組:小舞「兎」「花の袖」、狂言「痺」「鼻山状」ほか

小中高生が取り組んでいます。
1年の稽古の成果をぜひご覧ください。

次回展覧会予告

山形県内の

美術館・博物館収蔵品

特別巡回展

3月13日(土)～3月27日(土)

国立能楽堂開場25周年記念

国立能楽堂コレクション

エレガンス エスプリ

一能の雅 狂言の妙

同時開催 特別展示

「上杉家伝来 能衣装と能面」

前期/4月17日(土)～5月9日(日)

後期/5月11日(火)～5月23日(日)



- JR米沢駅から2km、上杉神社隣接
- 市内循環バス「上杉神社前」下車
- 山形蔵王IC・福島飯坂ICよりR13で50分

伝国の杜 米沢市上杉博物館

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1 TEL 0238-26-8001 FAX 0238-26-2660
http://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp/